

必見！

エキスパートの 多焦点IOL 選択の考え方

日時 2026年
1月30日(金)
12:30~13:30

会場 第3会場
福岡国際会議場 5F
「502・503」



本会ランチョンセミナーは整理券制となります。

【配布日時: 1月30日(金) 8:30~11:30 (※無くなり次第、終了)】

【配布場所: 福岡国際会議場 1F エントランスホール】

- 1) 整理券の受け取りには参加証が必要です。おひとり様1日1枚限り、開催当日分のみの配布となります。
- 2) 整理券の配布は先着順のため、なくなり次第終了させていただきます。
- 3) 配布時間終了後、整理券が余っている場合は、各セミナー会場前で配布します。
- 4) 整理券はセミナー開始と同時に無効となります。
- 5) 各セミナー会場には、整理券をお持ちの方から、優先的にご入場いただきます。
- 6) 整理券をお持ちでない場合でも、各セミナーの参加状況により、ご入場いただける場合があります。



座長

大内 雅之 先生(大内雅之アイクリニック)

多焦点IOLによる白内障手術はこの十数年の間に目覚ましい発展を遂げ、本セミナー共催企業のわかもと製薬からも3焦点IOL・アクリバトリノバProが発売されるなど、多焦点IOLの選択肢も大きく広がりをみせている。しかしながら、完璧な術後パフォーマンスを醸し出す製品特性を有するものは未だ存在せず、広い明視域の確保と異常光視現象の軽減化といったいわゆるトレードオフ的な実態の中で、患者ニーズを満たすためにどのように多焦点IOLを使いこなしていくか、私たち術者は大きな課題と対峙しながら日々研鑽を続けている。

多焦点IOLを使いこなすということは、症例や手術戦略に応じて複数ある多焦点IOLという駒を使い分けていくということでもあり、そのためには、製品個々の特性を理解し、様々な症例においてどのような術後結果が期待されるか精緻に予測する必要がある。

本セミナーでは、エキスパートが多焦点IOLをどのような考え方に基いて選択しているのか、強度近視なども例に挙げながら概説してみたい。

1990年 東京慈恵会医科大学 卒業
1990年 京都府立医科大学眼科学教室
1994年 公立南丹病院 眼科医長
2000年 京都府立医科大学大学院
2004年 大内眼科 主任執刀医
2007年 京都府立医科大学 客員講師
2012年 大内眼科 院長
2015年 東京医科歯科大学 非常勤講師
2016年 北海道大学 非常勤講師
2018年 大内雅之アイクリニック 院長
2021年 東京医科歯科大学 特命教授



演者
1

多焦点IOLの製品ポジショニングの整理

小島 隆司 先生(名古屋アイクリニック)

多焦点IOLは、2焦点、3焦点、連続焦点、EDoFなど、カテゴリーだけでも複数に分類され、製品ごとでは十数品目と多岐に及ぶ。市場にこれだけ豊富な選択肢がありながら、多焦点機構が直面する光エネルギーロス等の課題により、明視域は広いものの異常光視現象が一定以上出てしまうもの、或いはその逆といった実情のため、我々術者は1種類に依存するのではなく、複数の多焦点IOLを上手に使いこなしていくことが重要となってくる。

本セミナーでは、本邦における選定療養で選択可能な多焦点IOLを中心に、製品特性に基いた市場ポジショニングについて整理してみたい。

1998年 名古屋大学医学部 卒業
1998年 社会保険中央病院 眼科
2005年 ハーバード大学 Massachusetts Eye and Ear 留学
2006年 イリノイ大学眼科 留学
2012年 慶應義塾大学医学部 博士号取得
2012年 岐阜赤十字病院眼科 主任部長
2017年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 特任准教授
2022年 名古屋アイクリニック 角膜診療主任
2025年 名古屋アイクリニック 院長
JCHO中央病院 嘱託医師(角膜診療担当)
岐阜赤十字病院眼科 非常勤医師(角膜診療担当)
大連医科大学眼科 客員教授
モンゴル国立大学医学部 客員教授



演者
2

患者満足度における異常光視現象の影響

加藤 祐司 先生(札幌かとう眼科)

多焦点IOLは、加入度数を大きくすることで明視域は拡大されるが異常光視現象の発現が高まるリスクを背負っている。近年では、回折格子に工夫を施し、広い明視域であっても異常光視現象を軽減させる各社の企業努力によって改善はみられているものの、まだまだ課題は残存している。

「眼鏡をかけたくない」といった多焦点IOLの明視域に対する患者ニーズに立ちはだかる課題のひとつとして異常光視現象の発現があるといっても過言ではないであろう。

本セミナーでは、異常光視現象が患者満足度にどう影響するのか、そして、上手なマネジメントはどうあるべきかについて考察してみたい。

1993年 旭川医科大学医学部 卒業
1993年 旭川医科大学 眼科 入局
1999年 旭川医科大学 大学院医学研究科 終了
釧路赤十字病院眼科副部長、
旭川医科大学眼科講師・医局長を経て、
出身地の札幌市にて 札幌かとう眼科 開設
2011年 医療法人社団 彩光会(さいこうかい) 理事長
2015年



演者
3

強度近視症例における多焦点IOL選択のポイント

秦 誠一郎 先生(スカイビル眼科)

わかもと製薬より発売されたアクリバトリノバProは、球面Diopter 範囲が0.0Dよりラインアップされており、従来の選定療養では選択が不可能であった強度近視症例への多焦点IOLの選択を可能とし、その臨床貢献が期待されている。

しかしながら、強度近視症例は汎用Diopter症例と異なり、長眼軸といった眼球ポジションの悪さ、網膜感度の低下や将来の眼底疾患発症の懸念等、多焦点IOLを選択すべきかどうか考慮しなければならない留意点が存在する。

本セミナーでは、強度近視症例における多焦点IOL選択のポイントについて概説してみたい。

1990年 東邦大学 卒業
1990年 慶應義塾大学医学部眼科学教室
1996年 足利赤十字病院 眼科医長
1997年 大和市立病院 眼科医長
2011年 スカイビル眼科医医院 院長
2018年 横浜市立大学大学院 医学研究科眼科学教室 非常勤講師



演者
4

強度近視症例の多焦点IOL術後視機能の実際

藤本 可芳子 先生(フジモト眼科)

強度近視症例では、眼鏡に依存しない遠方視に憧れを強く抱く場合もあれば、近視状態に慣れているが故の軽度の近視狙いの方が満足度が高い場合もあるなど、その術後屈折目標は患者ニーズや術前のライフスタイルに大きく影響を受けると考えられる。

本セミナーでは、アクリバトリノバProの強度近視症例における具体的な術後視機能について自験例を供覧し、症例検討から見てくる強度近視症例における多焦点IOLの有効性について整理するとともに、屈折目標設定で悩んだ際にプラス側/マイナス側のどちらに振るべきか、或いは両眼に使用する際に左右眼の屈折差をどう考えるのがよいのか、考察を深めてみたい。

1987年 関西医科大学 卒業
1987年 関西医科大学眼科学教室
1988年 大津赤十字病院
1990年 有沢総合病院 眼科医長
1993年 フジモト眼科 院長
1995年 医療法人コスモス会 理事長
2018年 日本白内障屈折矯正手術学会 代議員
2022年 日本白内障屈折矯正手術学会 理事